

◆北海道警察:悲惨な交通事故を防止するため 取締りを強化します◆

平成27年度 **全国安全週間** (7月1日~7月7日)
(準備期間:6月1日~6月30日)

”1人で作業” 積卸作業時の転落・はさまれ、労災事故多発!

＜重大事故の増加＞

- スピードの出し過ぎによる、単独事故や正面衝突事故
- 交差点での、歩行者・自転車の巻き込み事故

渡って来るかもしれない・・・、飛び出して来るかもしれない

2時間ごとに、15分休憩!

交差点 「右左確認/よ~し!」

現場に向かっていたトラックの荷台から足場のパイプ落下

後続の13台事故、1人軽傷

◆積荷の”落下防止”、”荷締め”の確認◆

2015.6.9 16:13

9日午前7時10分ごろ、広島県、山陽自動車道のトンネル内で、トラックの荷台から鉄パイプ(直径5cm、長さ1m)10本が落下し、後続の車12台が次々に乗り上げた。うちワンボックスカーがのり面に衝突して逆さまになり、さらに後方から来たバイクが転倒した。高速隊によると、バイクに乗っていたアルバイト男性(31)が軽いけが。他にけが人はなかった。高速隊は、トラックを運転していた会社員の男性(34)から事故や荷台の状況を詳しく聞き、積載物の転落防止措置について道交法違反の疑いもあるとみて調べる。トラックは建設現場に向かう途中で、鉄パイプは足場を組むためのものという。

バック時、”後方の安全確認”せず

ごみ収集車 6歳児死亡、遺族が市を提訴

7,300万円賠償求める

2015年06月09日

今年1月、高知市で小学1年の男子児童(当時6歳)がバックしたごみ収集車にひかれて死亡した事故で「収集業務の安全確保を怠っていた」などとして、児童の両親らが、市と、市が業務を委託している協同組合と男性運転手(46)に対し、計約7,300万円の損害賠償を求めて高知地裁に提訴した。

訴状などによると、運転手は今年1月5日、市道でごみを収集していた際、後方の安全確認をせず、バック時に警報音を鳴らすブザーを切ったままバックし、自転車に乗っていた小1年の児童をひいて脳挫傷などで死亡させた。また、市と同組合はバックブザーを切った状態でのごみ収集や、後方確認モニターの未設置を放置しており「過失は重大」とした。市環境業務課は「訴状は確認しているが、今後の対応については検討中」としている。

家族4人死亡事故、26歳男逮捕 長男ひき逃げ容疑

「事故の前、飲食店でビールを1杯飲んだ」と供述

「車検が切れていた」ので、事故現場から立ち去った

2015年6月9日14時52分

砂川市の国道12号で乗用車と軽ワゴン車が衝突し、新聞販売所従業員の男性(44)ら家族4人が死亡した事故で、道警は9日、男性の長男(16)を車で引きずったのにそのまま放置したとして、解体工の男性容疑者(26)を道交法違反(ひき逃げ)の疑いで逮捕し、発表した。事故は6日午後10時半ごろ発生。国道12号を北進していた乗用車と男性の軽ワゴン車が交差点内で衝突。乗用車は炎上し、軽ワゴン車は約60メートル飛ばされ、大破した。事故後、約800メートル離れた路上で、長男が倒れているのが見つかり、死亡が確認された。衝突現場近くから長男が発見された地点まで約1.5キロにわたり血痕や何かを引きずったような跡があり、道警は、7日に警察に出頭してきた容疑者から事情を聴いていた。